

# 生産規模 大幅拡大へ

## 八戸ワイン

### 南郷地区ブドウ栽培

# 新年度新たに1万3000本

八戸市南郷地区で進むワイン用ブドウの栽培で、2017年度に新たに1万3000本が作付けされる見込みだ。ワイナリーを手掛ける生産法人が栽培に本格的に参入する

ほか、今秋から醸造が始まることで地元農家の関心が高まった。14、16年度に植えられたのは計3200本で、計画通りに進めば規模が5倍に拡大する。(岩淵修平)

## 生産法人が本格参入

28日に市南郷事務所で開催された南郷新規作物研究会(会長・丹羽浩正八戸学院大学長補佐)で、市が見通しを明らかにした。

市は生産者に対し、苗木1本につき購入費の半額810円を補助している。生産者らの意向を調査した上で、17年度一般会計当初予算に1万3000本の約1050万円を計上した。定期的に栽培講習会も開き、生産を後押しする。

国産ワインの人気上昇やラベル表示のルール厳格化が影響し、全国的にワイン用ブドウの苗木は品薄状態が続いている。

会議の席上、事務局の市農業経営振興センターは



八戸市南郷地区で進むワイン用ブドウの栽培

＝2016年9月